【教育長あいさつ】　　新座市教育委員会教育長　金子　廣志

本日ここに、令和４・５・６年度新座市教育委員会委嘱による新座市立新堀小学校の研究発表会が開催されますことを心よりお慶び申し上げます。さて、新しい時代に必要となる資質・能力を育成するためには、誰一人取り残すことなく全ての児童・生徒に「主体的・対話的で深い学び」を実現させる視点で授業改善を推進する必要があります。

このような中、新堀小学校におかれましては、「自己の考えを広げ、表現する児童の育成」を研究主題とし、熱心に研究に取り組んでこられました。本研究は、表現力を核としながら、自ら課題をもち他者へ自分の考えを伝えたくなったり、他者の考えを知りたくなったりする授業の工夫により、コミュニケーション能力や論理的思考力の向上を実現させるものです。自らの想いを他者へわかりやすく伝えたり、他者の想いを正しく理解したりしようとする態度は、多様な場面で良好な人間関係を築きあげることにもつながります。

最後になりますが、本校の研究のために熱心に御指導いただきました、十文字学園女子大学人文学部児童教育学科教授　狩野　浩二　様をはじめとする諸先生方に心より感謝申し上げるとともに、新堀小学校　若林　寿　校長を中心に御努力いただいた教職員、並びに研究推進に御尽力賜りました皆様に感謝申し上げ、あいさつといたします。

【校長あいさつ】　　新座市立新堀小学校長　若林　寿

令和４・５・６年度新座市教育委員会の「学力向上」に関する研究の委嘱を受け「自分の考えを広げ、表現する児童の育成」を研究主題とし国語、算数、外国語・外国語活動で研究を進めてまいりました。学習指導要領にありますように、これからの学校は、一人一人の児童が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められています。そのためには「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る」と同時に「学校が広く地域・社会と連携する」ことが必要不可欠であると考えます。本校では目指す学校像を「未来の社会を生き抜く力の基礎を築く学校」とし、ミッションと掲げる「グローバル人材の育成」と「ICT 化への対応」に力を入れて取り組んで来ました。また、特別支援教育の視点を重視し、誰一人取り残すことなく、すべての子供が安心して楽しく学ぶことのできる環境の構築を目指しています。そして、子供同士が互いに「尊重」し合い対等な関係のなかで違いを認め合う人間関係づくりを行うこと、あらかじめ期待された通りの答えを出すのではなく、探究的に自ら問いを立てて、多様な人々と協働しながらその解決を目指していくこと、新たな価値を作り上げる「創造力」を培うことを目指していきます。本研究も研究のための研究ではなく「目指す学校像」実現のための学校経営の根幹として捉え、教職員一同意識を高め「One チーム」で取り組んでいます。この度の研究発表会を新たなスタートラインとして、今後も研究を継続してまいります。

結びに、本研究の推進にあたりご指導をいただいた　十文字学園女子大学教授　狩野　浩二　様、デポール大学教授　高橋　昭彦　様、東京学芸大学名誉教授　藤井　斉亮　様、東京学芸大学准教授　成田　慎之助　様、上尾市立上平小学校長　中島　晴美　様、お茶の水女子大学附属中学校教諭　廿樂　裕貴　様に厚くお礼申し上げます。

そして、本研究の機会を与えていただくとともにご指導いただきました新座市教育委員会教育長　金子　廣志　様をはじめとする新座市教育委員会の皆様に心より感謝を申し上げ、挨拶といたします。

研究の全体構想

学校教育目標
学ぶ子ども　仲よくする子ども　健康な子ども　はたらく子ども

児童の実態
①元気がある　②明るい　③あいさつができる
④子どもらしさがある　⑤外でよく遊ぶ

教師からみた課題
①忍耐力がない　②苦手なことを避ける
③甘えん坊が多い　④自立、自律していない
⑤語彙力が不足している　⑥表現力が無い

研究主題
自己の考えを広げ、表現する児童の育成

目指す児童像

【低学年】
自分の考えをもち、表現することができる。

【中学年】
根拠をもって考えを伝え合い、自分の考えを広げることができる。

【高学年】
多様な意見を受け入れ、考えたことを論理的に表現することができる。

手立て１
自己を表現させる

低学年
自分の考えの理由を説明できるようにするとともに、自分の考えと同じところやちがうところ、付け足すところなどを伝えるための話型を用意する。また、児童同士が対話できるようにするために、対話の中に質問と応答を入れるようにさせる。目的意識、相手意識をもたせる。

中学年
理由を明確にして自分の考えを話したり書いたりすることができるようにするために型を用意する。語彙力をつけるために、日記・作文・スピーチに日常に取り組ませる。

高学年
語彙力をつけるために、作文や日記を書かせたり、新聞スクラップなどで自分の考えをまとめたり要約したりする学習に取り組ませる。

手立て２
他者に表現させる

低学年
単元の導入（第１次）で意図をもった指導をする。ペアでお互いに話をさせていく中で、質問して答えてさせるようにする。

中学年
聴き方と表現について指導する。尋ね方を指導し、表現を広げられるようにする。聞き上手を増やすために、話し合いのさせ方について学校全体で検討する。

高学年
相手に伝わりやすいように話し方や表現の仕方を工夫させる。話し合い活動を中心に他者と会話する機会を増やす。

これまでの取り組み

令和４年度　研究主題に迫るための手立てとして ICT 機器をどう活用をするか、ということを重点に置いて、全職員が公開授業を実施。研究授業は、国語と算数で実施。課題は別記の通り。研究授業においては、指導者より以下の内容の御指導をいただいた。

【国語】
・児童の言葉から考えることにより子どもたちの反応が変化し、子供の学力の伸びにつながる。
・教材文から課題を捉え、児童が学びたいという思いをもたせたり、必死に考える機会をあたえたりすることで深い学びにつながる。

【算数】
・授業研究５つの構成要素
　1. 目標設定と実態把握、計画立案（研究主題の設定）
　2. 学習指導案の検討と作成（目標の学習指導案化）
　3. 研究授業（観察資料収集）
　4. 研究協議会（収集した資料に基づく研究協議・評価
　5. 振り返り反省と研究紀要等の作成・発行
・授業研究は「問いから始まる」教師が答えをもっているものではない。
・研究協議は「若手が教師としての学び方を先輩教員から学ぶ場」
・教科書にない問題に取り組むのはとてもよい。ただし、なぜその問題に取り組むのかという意義を指導案上に明記する。
・学習感想を書きなさいと指示することで情意面と認知面、両面から振り返りを書くようになる。

令和５年度　児童が自発的に表現するための手立てを考え、教科を国語、算数、外国語に絞り、公開授業、研究授業を実施した。課題は別記の通り。研究授業においては、指導者より以下の内容の御指導をいただいた。

【国語】
・目的意識を浸透させる必要がある。
・やるべきことを整理することで、児童は学びの方向性を理解できる。
・児童の言葉でまとめをする、振り返りもまとめに基づいて行うべきである。

【算数】
・誤りや誤答が出たら、なぜ間違えたのかをみんなで考えさせても良い。
・お互いに授業を見合うことで、教科書の内容から指導内容を変えて指導をする力がついてくる。

【外国語】
・授業づくりでは、どのような言語材料をどのような目的で設定する必要かを考える。
・相手を知るためのコミュニケーションを大切するとともに、多様性や新しい発見、インフォメーションギャップが必要である。
・ICT の活用はあくまでコミュニケーションのサポートになるような使い方にすること。

令和６年度　先行授業として、指導者を招聘し、２年生で国語、４年生で算数、６年生で外国語の授業を実施した。指導者より以下の内容の御指導をいただいた。

【国語】
・授業において教師側の意図が子供たちの学習のめあてとなるようにすること。
・〇〇名人になるため、というめあてについて、どんなことができれば名人になるのか、をはっきりさせる。

【算数】
・問題を解くための授業ではなく、子供のもやもやとした疑問にとことん付き合う授業を行うこと。
・学習課題と話し合うべき内容を明確にする。

【外国語】
・児童同士でアドバイスする際、英語を用いて何を伝えるのかを明確にすること
・児童に「目的意識を持たせる＝必要感」になるようにする。

児童の変容

４月～５月に児童にアンケートを実施。その後、研究のまとめとして、年度末に再度、実施した。令和４年度は５項目の質問、令和５年度は共通の質問の他に、教科別に質問項目を設定し、アンケートを実施した。アンケートの結果は以下のとおり。

令和４年度
〇自分の考えをもって学習していますか。
「はい」「少しはい」８５%→８９%
「いいえ」「少しいいえ」１５%→１１%
〇自分の思いや考えを友達と伝え合っていますか。
「はい」「少しはい」７９% →９０%
「いいえ」「少しいいえ」２１%→１０%
［成果］　研究授業や普段の授業の中で、「伝え合う活動」を取り入れたため、表現する機会が増えた。
自分を表現することや友達と伝え合うことの良さに気づくことができた。
表現する活動を設定することで、主体的に学習に取り組む児童が増えた。
［課題］　表現力低位の児童への手立て、支援を考える必要がある。

令和５年度
［共通質問］
〇自分の考えを言うことができますか。
「はい」「少しはい」・８４%→８５%／「いいえ」「少しいいえ」・１６%→１５%
〇わからないことを解決したいと思いますか。
「はい」「少しはい」・ ９５%→１００%／「いいえ」「少しいいえ」・５%→０%
［国語］
〇自分の考えを、自信をもって伝えられますか。
「はい」「少しはい」・９１%→９２%／「いいえ」「少しいいえ」・９%→８%
〇発表や相手の意見を聞いて、自分の考えを伝えられますか。
「はい」「少しはい」・８６%→１００%／「いいえ」「少しいいえ」・１４%→　０%

［算数］
〇自分の考えをもって学習していますか。
「はい」「少しはい」・８７%→８８%／「いいえ」「少しいいえ」・１３%→１２%
〇自分の考えを友達と伝え合うことは得意ですか。
「はい」・５５%→５６%／「いいえ」・４５%→４４%
［外国語］
〇イングリッシュデー（木曜日）に英語を自ら使おうとしていますか。
「はい」「少しはい」・６４%→６５%／「いいえ」「少しいいえ」・３６%　３５%
〇友達と交流するときに、自分から相手に伝えようとしていますか。
「進んで伝えようとしている」・６３%→７５%
「友達が来れば伝えようとしている」・３７%→２０%
「先生に言われて伝えている」・　０%→５%
「していない」・　０%→０%

成果と課題

＜成果＞

令和４年度

・児童が意欲関心を引き出す課題や身近にある課題を提示することができるようになった。
・身近な題材から興味を引き出す工夫をすることができた。
・ロイロノートを活用して、既習事項の確認させることができた。
・多くの児童に、自分の考えを持たせることができた。

令和５年度

・教科を３教科に絞ることで、教科ごとの特性に応じた表現の研究ができた。
・ＩＣＴを効果的に活用することにより、考えをもたせることができた。
・新堀モデルの構築
指導案作成（授業者）→指導案検討①（指導者含む）→指導案検討②（ブロック）→模擬授業→事前授業→研究授業→研究協議会
指導案検討を繰り返し行うことで、研究授業について手立てにそった授業を実施し、充実した協議会を行うことができた。
・外国語の表現力がついてきた。
・様々な教科で、ＩＣＴを効果的に活用する実践を行うことができた。

＜課題＞

令和４年度

・ＩＣＴを使用する際、じぶんの考えを持つことができず、友達の考えをそのまま写すだけの児童が数名いた。
・個別最適な学びでのゴールを明確にする必要がある。
・考えをもてない子への支援が難しい。
・自分の考えに対して、根拠をもつことができない児童が数名おり、その児童に対しての支援の手立てが難しい。

令和５年度

・算数の自力解決場面の表現力向上と、学力別に応じた表現向上の手立てを打ち出す。
・事前に行うスピーチや短時間で行うテーマトークなどに取り組み、言語能力を育成する必要がある。
・外国語の学習の導入における、効果的なスモールトークの取り入れ方。
・自分の考えを表現するとき、ペアやグループでの少人数でならできるが、全体に向けてとなると、一部の決まった児童になってしまう。

御指導いただいた先生方

十文字学園女子大学人文学部児童教育学科教授
狩野　浩二　様
東京学芸大学名誉教授
藤井　斉亮　様
デポール大学教授
高橋　昭彦　様
東京学芸大学准教授
成田　慎之介　様
上尾市立上平小学校長
中島　晴美　様
お茶の水女子大学附属中学校教諭
廿楽　裕貴　様
新座市教育委員会学校教育部長
杉原　浩二　様
新座市教育委員会学校教育部参事兼教育支援課長
山崎　孝雄　様
新座市教育委員会学校教育部教育支援課指導主事
橋本　優子　様
新座市教育委員会学校教育部教育支援課指導主事
佐久間　雄一　様
新座市教育委員会学校教育部教育相談センター指導主事
相場　　健　様

研究に関わった教職員

令和６年度（◎：研究推進委員長　〇：研究推進委員）

校長　若林　寿	教頭　池谷　ひろみ	主幹教諭・研修主任　花岡　重治		
◎信太　健一	小島　桂子	大竹　佳菜	國原　健介	
〇前田　竜司	宮内　美蘭	小島　典江	〇馬場　春樹	
〇金子　正央	小山田　沙代	見澤　卓	谷口　舜	
〇井元　優美	〇小林　久乃	渡辺　亮太	沼澤　千恵子	
占部　理恵	宇梶　優	〇植松　怜音	篠原　杏莉	
秦　薫	井口　裕美	渡邊　幹男	松本　かんな	
蜂谷　啓子	加藤　美由紀	佐藤　澄子	東海林　美雪	

令和５年度

木村　弥生	工藤　俊輔	佐佐木　佳奈子	山中　雪乃
福永　彩花	齋藤　仁	江原　美穂	宮城　崇
熊倉　徹	清水　直子	吉田　梨紗	

令和４年度

教頭　山崎　孝雄			
今村　晃子	村田　聡子	榎本　睦美	内海　千寿

令和4･5･6年度新座市教育委員会委嘱

研究概要

研究主題
自己の考えを広げ、表現する児童の育成

令和６年１１月１８日(月)
新座市立新堀小学校